



# COMPASS

# 羅針盤

## トップのあるべき姿

介護業界の喫緊課題は、人材難に尽きるといって過言ではあるまい。

だが、どの事業者にとっても共通する大問題であるかといえば、必ずしも一様ではない。

その違いは、偏にトップの姿勢や言動にあるとみてよい。

トップのタイプには、一人称的、二人称的の二通りある。

一人称的トップは、①強引に仕事をさせる、②権威に頼る、③恐怖を煽る、④オレ（私）は、ねっっ！、⑤さあ、仕事にかかれ と、まるでボス的な姿勢による言動が見てとれる。

二人称的トップは、①仕事ができるように指導する、②お互いの共感を頼りにする、③情熱を煽る、④オレ（私）たちは、ねっっ！、⑤さあ、仕事をしよう と、ニュアンスは異なってくる。

一人称は、独り相撲を取っているようなもの。

トップが発揮すべきリーダーシップは、地位や権威をかざすものであると考えている人もいる。

スタッフとの相互理解を通して共有すべき経営目標に向かって成果を挙げつづけるための人材育成は、トップ自身が自らを教育する見地に立って、二人称的な言動をとることも大事なことである。

一人称的トップ	二人称的トップ
①強引に仕事をさせる	仕事ができるように指導する
②権威に頼る	お互いの共感を頼りにする
③恐怖を煽る	情熱を煽る
④オレ（私）は、ねっっ！	オレ（私）たちは、ねっっ！
⑤さあ、仕事にかかれ	さあ、仕事をしよう

ところで、教育とは、1)教えるんでいく場である。

このように、短絡的に考えないことである。

制度が変われば、その捉え方や答えの導き方も変わるのである。

以前本紙にて、「戦略発想の転換2」の"9つの点を全て通って、3本の直線で一筆書きせよ"として示したので参考にされたい。

同様に、教育は、2)共育（共に育んでいく場）、3)協育（協力しながら育んでいく場）、4)強育（強く育んでいく場）と、当てはめる漢字を変えれば、意味も変わる。

トップは、自らが自らに対して意識改革の手を緩めてはなるまい。

制度施行から9年目となる今春は、高校進学に向けた受験の年。

中学進学より、なお厳しい上り坂を「考えながら走る」ことを続けなければならない。

まずは、普段の業務姿勢から点検を行いたい。

働く者の役割は、仕事を理解すること。

仕事を教える者の役割は、周りのスタッフに範を示すこと。

役職者の役割は、周りの人たちに確実に仕事を達成させること。

トップの役割は、周りの人たちを鼓舞して、その仕事を進化させること。

進化は、深化、新化、真価につながり、その発揮が問われる。

強育の強という字は、したたかとも読む。

また、健という字も、したたかとも読む。

2015年に向けて、強かに、そして健かに「考えながら走る」ことのできるトップであり続けたい。

人望とは、トップが部下を引っ張っていく能力ではなく、部下がついてきてくれる能力である。そして、それは、トップが決めることではなく、部下が決めることである（米国プロフットボール名QR スティーブ・ヤング氏の言葉）という。

見ているはずの自分が、部下や利用者など多くの人たちから一部始終を見られているということを忘れてはなるまい。

自ら、言行一致を貫くことである。

仮に、人材難で苦境に立たされていると感じるトップがいたとしたら、次の項目を解決することが最優先である。

- 一、……部下（利用者）への理解がお粗末
  - 二、……想像力が欠如している
  - 三、……個人的な悩み事を沢山抱えている
  - 四、……責任を転嫁する
  - 五、……天下泰平を決め込んでいる
  - 六、……支離滅裂
  - 七、……直ぐに頭に血が上る
  - 八、……リスクを取ろうとしない
  - 九、……いつも不安で守りの姿勢をとる
  - 十、……融通を利かそうとしない
  - 十一、…チームスピリットを持ち合わせない
  - 十二、…変革に臆病である
- 急がば回れ。

人材難の克服は、トップのあるべき姿を示すことから始めたい。

(有)ハヤカワプランニング 代表

### 早川浩士氏

1953年生まれ54歳 中央大学卒業 経営コンサルタント  
継栄と人財創造塾主宰  
著書「介護人材創造塾（筒井書房）」「介護保険改正に勝つ！経営（年友企画）」他  
著書多数「経営（継栄）のツボ」を「月刊介護ビジョン」にて連載執筆中 同誌  
編集委員 <http://www.hayakawa-planning.com>

訂正  
前号の本連載文中  
一、人として、「しなければならぬことしない」という基本（鉄則）を怠らないこと。  
二、人として、「やってはならぬこととする」という定石（ルール）を外さないこと。  
を  
一、人として、「しなければならぬことをする」という基本（鉄則）を怠らないこと。  
二、人として、「やってはならぬことをしない」という定石（ルール）を外さないこと。  
に訂正します。（編集担当者）